

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

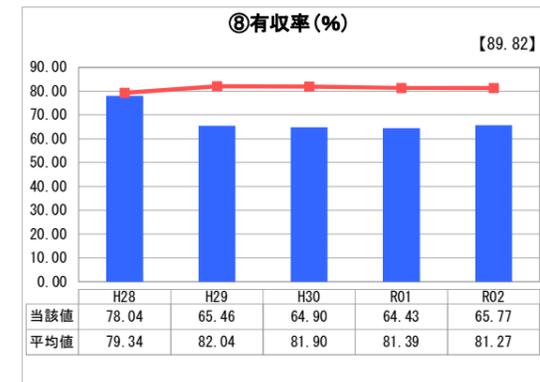
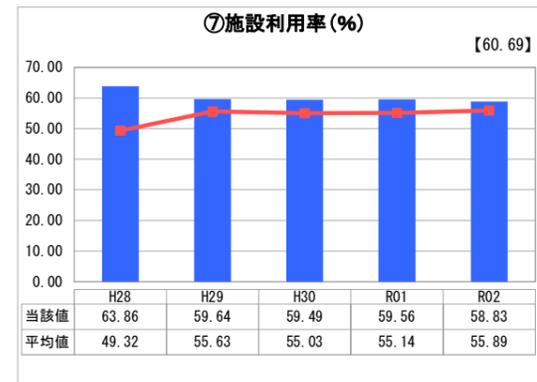
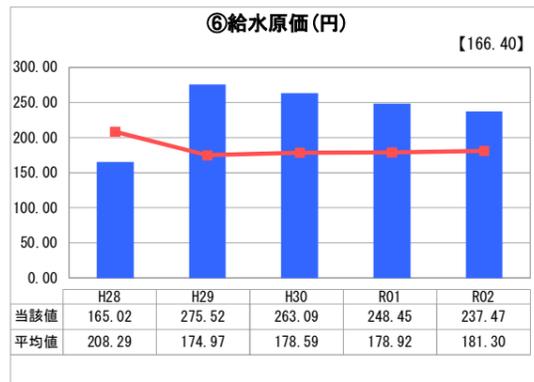
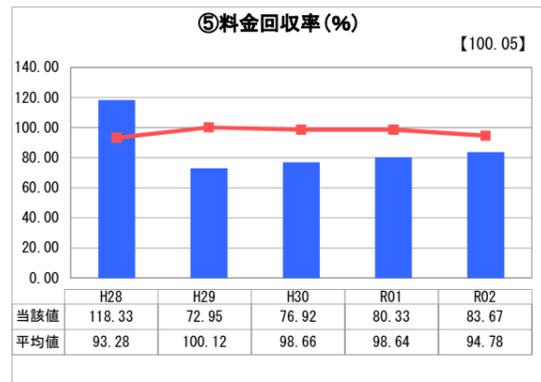
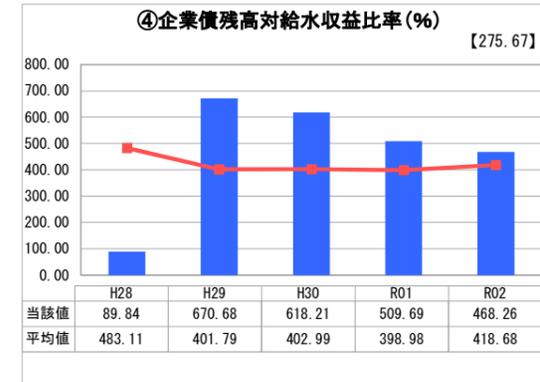
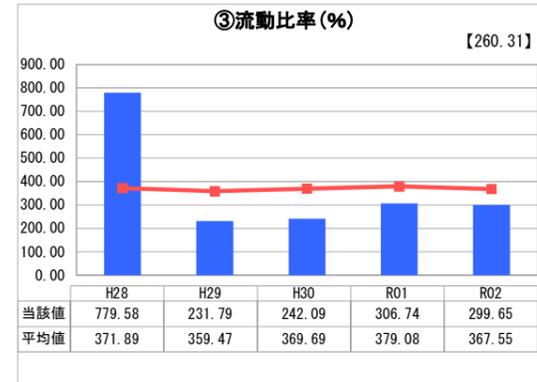
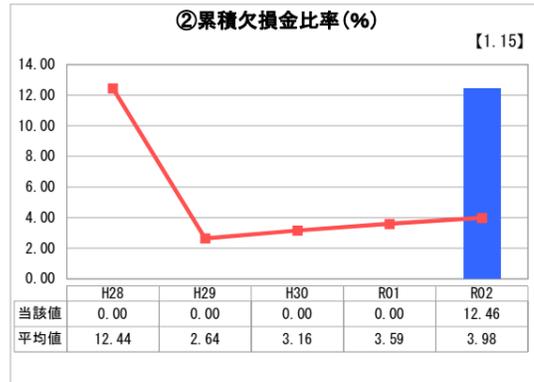
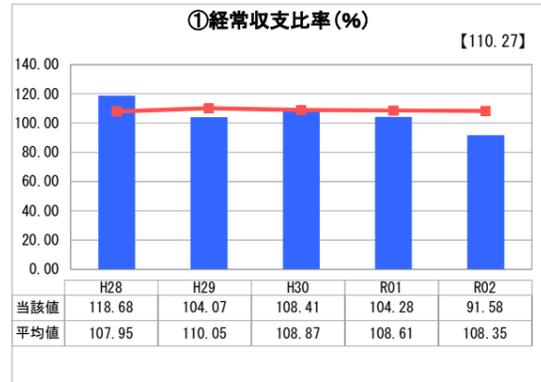
長崎県 壱岐市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	70.63	99.76	4,240	

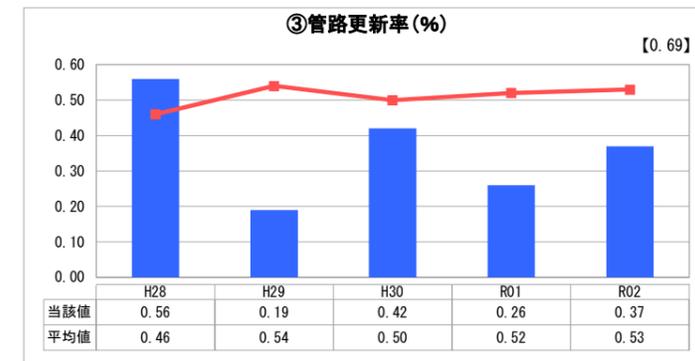
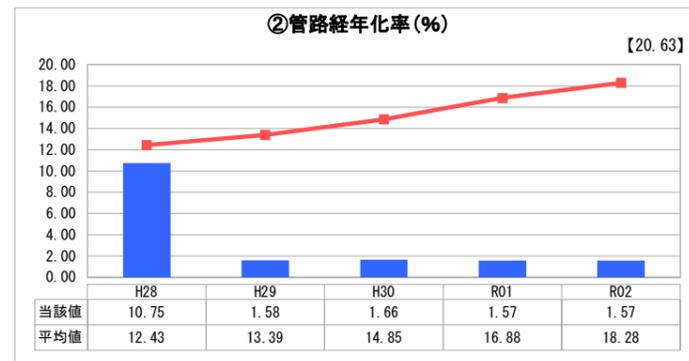
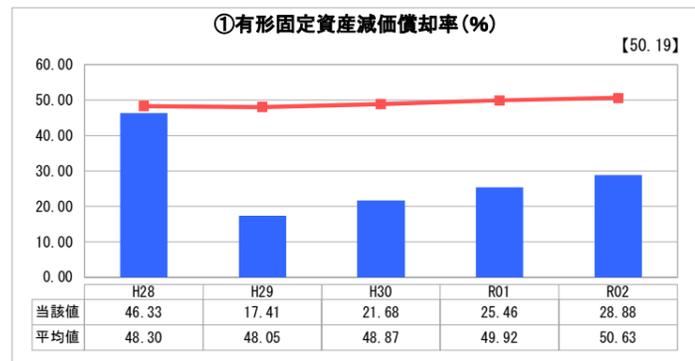
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,977	139.42	186.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,564	133.93	190.88

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率がR2年度は100%を切っているが、これは一般会計からの基準外繰入が削減されたため、繰入金に依存した経営状態であり、現在料金改定を行う方向で協議を進めている。

② 累積欠損金比率がR2年度から発生しているのは①のとおり繰入金が削減されたことが主な要因であり、さらに維持管理費も増大しているため、将来を見通す経営分析を必要とする。

③ 流動比率は100%を超えているが、平均値は下回っている。昨年まで増加傾向でR2年度は横ばいであることから、現状問題ないと考えている。

④ 企業債残高対給水収益比率は平成29年度に簡水を統合したため、平均値を上回っている。

⑤ 料金回収率は増加傾向にあるものの平均値を下回っており、料金改定を行うことを協議している。

⑥ 給水原価は有収率が低いために平均値を大きく上回っている。今後有収率の向上が必要と考える。

⑦ 施設利用率は季節による変動に加え老朽化も進んでおり、ピーク時には高負荷での稼働を余儀なくされている。今後の人口減少を踏まえ、施設の統合・ダウンサイジングも検討すべきと考える。

⑧ 有収率は対策を講じているものの、依然として平均値を大きく下回っている。今後も継続的な漏水調査・老朽化の更新を行う。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率② 管路経年化率③ 管路更新率のいずれも平均値を大きく下回っているが、これは統合した簡水分の管路経過年数について正確に把握できていない部分があることが要因と考える。現在資産調査を行っており、資産管理の精度向上及び老朽管の計画的・継続的な更新が必要と考える。

## 全体総括

簡水を統合したことで経営状況が悪化し、平均値を下回る箇所(項目)が見受けられるため、経常収支比率や有収率の向上等、更なる経営健全化を図る必要がある。また、今後は老朽施設・管路等の設備更新を実施しなければならないため、一般会計からの繰入金に依存しないためにも、料金回収率の向上や今後の料金改定を含めた財源の確保が重要課題である。